

## (臨床研究に関するお知らせ)

### 絞扼性イレウス(腸閉塞)に対する通院歴のある患者さんへ

福岡東医療センター外科では、以下の臨床研究を行っています。ここにご案内するのは、過去の診療情報や検査データ等を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」という臨床研究で、当院倫理委員会の承認を得て行うものです。すでに存在する情報を利用して頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報の保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われる方で、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

#### 1. 研究課題名

絞扼性イレウス患者における各種スコアリングと術式選択の関連性に関する検討

#### 2. 研究責任者

外科医員 小齊 侑希子 (こさい ゆきこ)

#### 3. 研究実施期間

2023年10月12日～2025年3月31日まで

#### 4. 研究の目的

絞扼性イレウス(腸閉塞)は外科において最も多い緊急手術を要する疾患の一つですが、腸閉塞の程度、腸管切除の要否によってその緊急度が異なります。しかし、実際の評価は術中の肉眼所見によってしか判断できず、決まった指針は存在しません。また腸管切除の有無は、患者の術後QOLを左右する項目でありながら、術者によりその基準は様々です。近年、NLR、PIV、PLRなどの血液検査データを用いたスコアリングが、主に悪性腫瘍における予後予測スコアとして有用とされており、急性虫垂炎、閉塞性腸閉塞など救急疾患においてもその有用性が報告されています。今回、我々は絞扼性イレウスにおけるこれらスコアリングの有用性を検討します。

#### 5. 研究の方法

2012年1月1日より2022年12月31日までに当院にてイレウス(腸閉塞)の診断で手術を施行した方の電子カルテ内の情報を用いて、統計学的に解析を行います。

#### 6. 利用させて頂く情報

診療録より収集を行うデータは、被験者個人情報(年齢、性別)、血液検査などの術前情報、画像診断(CT検査)、手術関連情報(術式、手術時間、出血量等)、術後合併症、病理組織診断、術後予後に関する情報です。カルテから情報を得た時点で氏名、住所、生年月日等の個人を特定できる情報は削除します。本試験で得られたデータの二次利用はございません。本研究のために、患者さんにあらたな負担や危険が生じることはありません。

#### 7. 個人情報の取扱いについて

利用する情報からは、患者さんを特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も患者さんの個人情報が公表されることはありません。臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、患者さんには、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡ください。研究対象から除外させて頂きます。なお、研究協力を拒否された場合でも、診療上の不利益を被ることは一切ありません。

## 8. 問い合わせ先

〒811-3195 福岡県古賀市千鳥 1-1-1

福岡東医療センター 外科

研究責任者：外科 小齊 侑希子（こさい ゆきこ）

TEL：092-943-2331（代表） FAX：092-943-8775